

研究課題名	急性骨髄性白血病に対するアザシチジンの有効性と予後因子の調査研究
研究機関名	武蔵野赤十字病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、がん・感染症センター都立駒込病院、青梅市立総合病院、横浜市立みなと赤十字病院、横須賀共済病院、東京通信病院、東芝病院、豊島病院
研究責任者	所属 血液内科 氏名 押川 学
研究期間	(西暦) 2017年12月 ～2019年3月
研究の意義・目的	アザシチジン (AZA)は高リスクの骨髄異形成症候群 (MDS)に対する標準的治療薬とされ、MDSの白血病への進展を予防するだけでなく全生存率も延長することが知られている。また現在用いられているWHO分類では急性骨髄性白血病 (AML)と診断される骨髄中の芽球が20-30%の症例は以前のFAB分類ではMDS, RAEB-tと診断され、そのような症例においてもAZAは効果を認めている。また、骨髄芽球が30%を越すようなAMLにおいても有効であることが報告されている。本邦においてはAMLに対するAZA使用の実態は十分に調査されておらず、有効性と予後予測因子を明らかにする必要がある。今回AMLに対しAZA治療を施行された症例を後方視的に調査し、AMLに対するAZAの有効性を明らかとするとともに、前治療の内容や反応性別の奏効率や予後因子である染色体・遺伝子異常と治療効果や予後を明らかにする。
研究の方法 (対象期間含む)	参加施設で2011年3月 (アザシチジン発売直後) から2017年3月末までに急性骨髄性白血病と診断された症例でアザシチジン治療をした症例を対象とする。方法としては参加施設に研究計画書と調査票をメールで送付する。
①試料・情報の利用 目的及び利用方法 (匿名加工する場合や 他機関へ提供される場 合はその方法含む) ②利用し、又は提供す る試料・情報の項目 ③利用する者の範囲 ④試料・情報の管理 について責任を有す る者の氏名又は名称	①アザシチジンの効果や予後因子を解析するために、診療録より情報を抽出する。患者ごとに登録時に本研究独自の患者識別番号を付与して調査票に記入を行い、電子メールにて事務局 (東京医科歯科大学血液内科) 及び研究責任施設 (当院血液内科) に送付される。従って、調査票には個人を特定できる情報は記載されず、事務局及び研究責任施設では個人情報が含まれない形式で保存、解析を行う。 ②本研究で収集する臨床データは以下の項目である。 1). 登録情報：施設名、症例番号 2). 診断時の臨床データ 3). 化学療法に関するデータ 4). アザシチジン治療に関するデータ 5). アザシチジン中止後の増悪に関するデータ 6). 予後に関するデータ ③事務局 (東京医科歯科大学血液内科) 及び当院血液内科押川学 ④研究責任者 武蔵野赤十字病院 血液内科 押川 学
問合せ先	当研究に自分の試料・情報利用を停止する場合等のお問い合わせ 〒180-8610 東京都武蔵野市境南町1-26-1 武蔵野赤十字病院 所属 血液内科 氏名 押川 学 TEL : 0422-32-3111 (代表) 6812 (事務局内線) FAX : 0422-32-3525